

日本SOD研究会 PLUS+

2026
Vol.07

03

March

インタビュー

大腸がんステージ4から仕事復帰へ

辛いはずの治療を穏やかに乗り越えられた理由
不安な日々の中で訪れた希望

整体院 院長が語る健康維持への哲学

健康を維持するために最も大切なこと

コラム

100兆の住人が教えてくれる、ガン予防のヒント

近年注目されている“注意すべき菌”とは？

連載

臨床で感じとれるエビデンス

第2回 センサーが作動しなければいけない理由

大腸がんからの挑戦。

47歳女性がSODと

共に取り戻した「前向きな毎日」。

「異常なし」から一転、大腸がんのステージ4の宣告。前向きな気持ちを支えた出会い。

介護士として働く山本くみ子さん(47歳)は、ある日突然、人生のどん底に突き落とされました。腹部の異変を感じて複数の病院を訪れ、エコーや胃カメラ検査を受けても、医師からは「特に異常なし」と告げられ、胃薬を処方される日々。しかし、2025年1月。突然の激痛で救急搬送された病院で下された診断は、大腸がんステージ3。さらに手術の際、リンパ節と腹膜播種への転移が確認され、最終的にはステージ4という、極めて厳しい宣告となりました。

「今までは健康そのものだった」という山本さんにとって、この事態はまさに青天の霹靂でした。病と向き合う中で、山本さんが頼ったのは、日頃から通院していたTHB 湖西整体治療院の大橋 寧院長でした。

山本さんの相談に対し、大橋院長は「本気でガンと向き合う覚悟があるか」と問いかけ、山本さんが「治す気はあります」と答えると、「病院での治療に加え、自然治癒力を高める可視光線治療(光線治療)、そして日々、健康維持のために丹羽メデイカルの「SOD様食品(以下SOD)」を摂って一緒に頑張ろう」と力強く励まされたと言います。(※1厚生労働省認可の光線治療器です)

大橋院長は、自身の若い頃の経験から、現代医療の枠を超えた、身体が本来持つ力を引き出す東洋的なアプローチや光線治療の可能性を深く理解しています。院長にとって、山本さんの「前向きに病と闘いたい」という強い意志こそが、サポートの第一歩でした。こうして、山本さんのステージ4からの挑戦は、病院、THB整体治療院、そして健康食品であるSODという三位一体の強力なサポート体制で始まったのです。



Episode 01

治療への強い意志が、新たな一歩を踏み出す力に。



山本くみ子さん



大橋 寧 院長

Episode 02

抗がん剤治療を乗り越えて。「SOD」が支えた日々の活力。

「肌の色ツヤもよく、とても大病をされたとは思えない容姿が印象的」と大橋院長は話します。

山本さんの治療は、病院での抗がん剤投与と手術、THB整体治療院でお借りした光線治療器そしてSODの摂取という、多角的なアプローチで進められました。特に注目すべきは、SODの摂取方法です。

山本さんは、入院後すぐにSODを飲み始めました。当初は、抗がん剤による副作用の軽減を目的として、朝・昼・夜の空腹時に5包ずつ、1日合計15包という集中的な摂取からスタート。腫瘍マーカーが正常になってから、朝4包、昼と夜に3包ずつ1日10包に変更。この継続的な摂取が、その後の前向きな変化を支えることになりました。

抗がん剤治療は、一般的に脱毛や倦怠感といった激しい副作用を伴うことが知られています。しかし、山本さんは抗がん剤投与を繰り返しているにもかかわらず

	朝	昼	夜	合計
入院後 抗がん剤による 副作用の軽減目的	5	5	5	15
腫瘍マーカー 正常後	4	3	3	10

(包)

THB 湖西整体治療院

静岡県湖西市南台 4-8-33

☎ 053-523-8415

http://www.thb-kosai.com



ず、「体調を大きく崩すことなく、脱毛も全くありませんでした。」主治医も驚くほどでした。山本さんは、SODを毎日飲んでいるという「安心感」「絶対に乗り越える」という強い決意が、日々の活力を支え、心身をサポートしてくれたと感じています。

治療の効果は、主治医の言葉にも表れました。通常、抗がん剤が効かないとされる腹膜播種が小さくなり、主治医は「抗がん剤が効いているのか？非常に良い効果が表れている証拠である」と驚きを隠せなかったと言います。これは、病院での治療効果に加え、SODが持つ日々の健康をサポートする力が、身体のコンディションを整え、治療に前向きに取り組む姿勢を後押しした結果だと考えられます。

Episode 03 腫瘍マーカー正常化！ 「健康寿命を延ばす」ための 共通認識。

SODの摂取と、光線治療、病院での治療を続けた結果、山本さんの体調は目覚ましい回復を遂げました。手術から3ヶ月、6ヶ月後の検査では、腫瘍マーカーが正常値を推移。この知らせを聞いた時、山本さんは「ついに、やったーと言う気持ちでした。これからは前向きな生活が送れると思いました」と当時の喜びを語っています。主治医からも「全てにおいて良い方向に向かっているね」と太鼓判を押され、現在、山本さんは仕事にも復帰。病気になる前よりも元氣だと感じており、周囲の人々もその回復ぶりに驚いています。

院長が語る、 健康維持への哲学。

philosophy



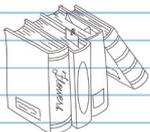
大橋院長は身体の不調や老化現象は、生活習慣の見直しや、心身の疲労（ストレス・考え方）、四毒^{※2}を取り除くことから始めなければならないと説きます。病気になったら薬に頼るのではなく、「**正しい知識と認識で、病気にかかりにくい健康な身体を目指すことが最も大切**」という哲学のもと、SODを日々の健康維持の重要な柱として位置づけています。

大橋院長自身も、多忙な仕事による慢性疲労やストレスからくる不調がSODで改善した経験から、体調に応じて摂取量を調整しながら、今後も健康維持のために飲み続けることを決意しています。**SODは、単なる健康食品ではなく、「前向きな私」を取り戻し、健康寿命を延ばすための希望の光なのです。**



写真：大橋院長

SODをはじめ、ルイボスティー、モリンガオイル、マダニーストを使用したクリームを欠かさず使用しているそう



※2 四毒・・・小麦・植物油・乳製品・甘いものの4つを指し、これらを控えることで健康改善を目指す食療法「四毒抜き」で用いられる概念です。医師の吉野敏明氏が提唱

COLUMN

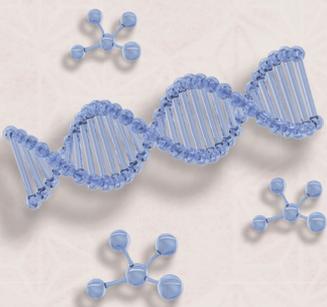
100兆の住人が教えてくれる、 がん予防のポイント

私たちの腸には100兆個以上の細菌が共生しています。その多くは健康を支える“味方”ですが、近年、がん研究の分野で注意すべき存在として注目されている菌もあります。そのひとつが、「コリバクチン」という毒素をつくる一部の大腸菌です。コリバクチンは人のDNAを直接傷つける性質を持ち、若い世代で増えている大腸がんの一因として関与している可能性が指摘されています。

2025年の国際共同研究では、日本人の大腸がん症例の約5割に、コリバクチンによる特徴的なDNA変異パターンが確認されました。さらに、この変異は50歳未満の若年層で3倍多い傾向があり、若年性大腸がんの増加と関連している可能性も示されています。

一方、胃がんの分野では、ヘリコバクター・ピロリ菌が長年研究され、慢性的な炎症を通じて発がんリスクを高めることが知られています。腸でも胃でも、特定の細菌が長期的にDNAを傷つけ、がんの背景に関わるという共通点が見えてきています。

腸内細菌は食事や生活習慣によって大きく変わるため、腸の環境を整えることは、がんの予防や再発予防の観点からも重要なテーマとして注目されています。



臨床で感じとれる エビデンス

第2回 センサーが作動しなければいけない理由

ヤツが教えてくれるものとは？！原因と予兆。

— その場しのぎの空腹を満たす食事を優先し続けてきた結果…。



ヤツが教えてくれるものとは？

前回は「どんな時に私の優秀なセンサーが作動するか」を紹介したが、今回はさらに踏み込んで「なぜセンサーが作動しなければならぬのか」を考えてみたい。もちろん、これは私自身の経験に基づいた推論だ。

年齢を重ねると、多くの人が何らかの疾患を抱え、それに打ち勝とうと努力しながら生活している。しかし、発症に至る前には必ず原因や予兆があるはずだ。私自身、激務を言い訳に食生活をないがしろにし、空腹を満たすだけの食事を続けてきた。その結果、頻便・軟便・下痢が日常となり、ついには「ヤツ」まで登場する羽目に…。

それでも懲りずに「食物アレルギーか？腸の膠原病か？」と病氣探しに走り、病院で上部・下部内視鏡検査を受けた。ドクターはもっともらしい疾患名を提示してくれたが、結局それは「身体が教えたい、気づかせたい」ために発しているセンサーの声だったのだ。にもかかわらず、私はそのセンサーを悪人扱いしてしまった。

症状とセンサーに気づけ！

下部内視鏡検査では大腸ポリープ(腺腫)



が見つかり、毎年検査と切除を繰り返すことになった。食生活改善などそつちのことで、センサーそのものを切除しようとする浅ましい行動…。当時は下痢などの症状が激しく、耐えがたい痛みだったのも事実だ。

しかし、運命を変えたのは「糖尿病体質」という遺伝的背景だった。糖尿病は血管をもろくし、完治が望めない生活習慣病とされるが、だからこそ生活様式の改善が重要だ。体質に合った食事、ストレスをため込まないでコルチゾールを上げない暮らしを心がけたところ、便の不良やポリープが著しく改善。ドクターも驚く「未病」の状態を得ることができた。

身体は常に恒常性を維持しようとして努力している。症状や予兆はそのメッセージであり、センサーなのだ。つまり「身体の警告に素直に従い、改善していく以外に道はない！」ということだ。

恒常性を支える食事とは？

激務の頃、親友から「値段の高い、いい物を食べなければならぬよ」と言われた。私は「安くても美味しい物はある」と軽く受け流したが、今ではその言葉の意味を深く理解している。高い食べ物、

- ① 手間と時間がかかっている
- ② ブランドゆえの品質
- ③ 安全・安心
- ④ 美味しさ
- ⑤ 身体に良い



という要素を兼ね備えている。毎日高級寿司やステーキを食べるという話ではなく、「身体が喜び、恒常性維持に役立つ食事を選べ」という教えだったのだ。今では「いい食べ物」は劇的な効果をもたらす力を持っている」と痛感している。身体は生きるためにセンサーを発し続けている。その声を無視せず、食事や生活習慣を整えることこそが、恒常性を守る最も確かな道なのだ。



SODと活性酵素の関係とは

SOD(スーパーオキシド・ディスムターゼ)は、活性酵素を取り除く酵素で、体内の健康維持に不可欠です。活性酵素が増加すると、がんや生活習慣病を引き起こす可能性が高まりますが、SODが余分な活性酵素を除去し、健康を守ります。しかし現代のストレスや健康環境要因で活性酵素が増えSODの働きが追いつかないことが問題視されています。

丹羽SOD様作用食品の開発背景

丹羽耕三博士は、白血病でご息を亡くしたことをきっかけに、副作用のない治療薬の研究を始めました。SODは分子量が大きく、通常の内服では吸収されにくいいため、博士は20年にわたり、研究を重ね、低分子化した丹羽SOD様食品を開発しました。丹羽先生の信念は「病気は自分の力で治す」。この理念は、現代医療にも受け継がれ、多くの難病治療に貢献しています。



執筆者
長瀬 雅之 獣医師

丹羽メディカル研究所所長
動物用 SOD 様食品開発者
ジェナー動物クリニック院長



丹羽耕三 医学博士 (2022年9月逝去)
SOD 様食品開発者・京都大学医学部卒業 医学博士
丹羽免疫研究所名誉所長・医療法人 修命会理事
士佐丹羽クリニック元院長